

## 主の洗礼 B年

マルコ 1・7-11

2015.1.10 18:30 ミサ  
マルセリーノ・フォンツ  
(クラレチアン宣教会司祭)

イエス様の洗礼の話は、大事な話として四つの福音書に記されています。特に、このマルコ福音書の場合は、イエス様がヨルダン川でなされた体験の大切さが明らかになっています。イエス様の福音宣教は、洗礼者ヨハネから洗礼を受けられて始まっています。だから、イエス様がヨルダン川でなされた体験は福音の始まりであり、福音の根本でもあります。このイエス様がなされた体験は、イエス様が宣べ伝える「良い知らせ」の根本になっています。イエス様ご自身が会堂ではっきり述べたことです。預言者イザヤのことばを用いて、自分の上に霊が注がれて、貧しい人々に福音を伝えるために選ばれたのです。(1)

イエス様は、洗礼者ヨハネから洗礼が授けられて、実際にどのような体験をなされたのでしょうか。この体験はわたし自身の体験だと、はっきり述べられています。内面的な体験、イエス様の上に霊が降って、聖霊によってイエス様が神の愛する子であるということが示されたのです。イエス様がなされた体験は、天から聞こえた声によって、わたしたちにも示されているのです。だから、イエス様はそこで神の子としてのアイデンティティーを体験なされたと言えます。イエス様の根本的な悟りとして述べられているのではないかと思います。

しかし、イエス様がその体験をどの場面でなされたか考えてみると、そこには大事な意味が含まれています。洗礼者ヨハネの洗礼は、悔い改めの洗礼だったということ、罪びとのための洗礼だったということです。そのため、ヨハネ福音書の中で述べられているように、洗礼者ヨハネは最初、イエス様に洗礼を授けることを断ります。今日の福音の中でも「わたしはその方の履物のひもを解く値打もない」と言っています。イエス様は罪びとではないので、洗礼者ヨハネは、イエス様に洗礼を授けるのは意味がないと思ったからです。しかし、イエス様は洗礼者ヨハネに、洗礼を授けてくれるよう願ったのです。なぜかという、イエス様は、罪びとの間に、罪びととして、洗礼を授かったのです。つまり、このイエス様の体験、天から聞こえたことばは、ただイエス様ご自身のための体験ではなく、みんなのためのことばとして聞こえたと言えます。

このようにイエス様は、洗礼を受けてから良い知らせを宣べ伝え始めたと言っています。その良い知らせとはどのような知らせなのかというと、一人ひとりが神様から愛されている子である、みんな愛されているのだということです。だから、イエス様はそれを、社会の中で排除されていた人、虐げられてい

る人々に優先的に宣べ伝え始めたのです。それは、貧しい人々、病気の人々と、罪びとと思われていた人々、奴隷になっていた人々、社会の中でもしかしたらあまり一人の人間として取り扱われていないけれども、神様にとって大事な子である、一人ひとりを愛してくださる神の子だということ、これがイエス様の伝える良い知らせの根本になっているのではないのでしょうか。

イエス様ご自身はというと、洗礼の時に初めて神の子として意識をもつようになったわけではないと思います。初めからその意識があったと思います。ルカ福音書の中ではっきり述べられています。<sup>(2)</sup>そこでイエス様に示されたのは、神の子として自分に与えられた召命と使命ではないかと思います。イエス様ご自身は良い知らせをのべ伝えるために聖霊によって油を注がれて選ばれたのです。だから、イエス様はその時から福音をのべ伝え始めたのです。このイエス様の体験はわたしたちにとってとても大事な意味を示しているといえます。その福音によって、わたしたちは神の子としてのアイデンティティーを新たに意識するように招かれているのではないかと思いました。でも、それは、わたしたちが神様に愛されているということだけではなく、神の子として一人ひとりに与えられている召命と使命を新たに悟る、新たに気づいて、その意識をもって生きるように呼びかけられているのではないかと思います。

イエス様の洗礼、主の洗礼の日は成人の日にもなっています。二十歳になったら社会の中で成人として認められるようになります。しかし、認められても、本当に成人になっているかという点と違っているのではないかと思います。本当に成人になるということは、ただ年齢の問題ではなく、根本的に一人の人間としてのアイデンティティーを意識し、社会の中でも自分の責任と使命を意識して生きるようになるということこそ、成人になることではないかと思います。だから、言い換えれば、人間としての本当のアイデンティティーに気づいて、人間として与えられている召命と使命に気づかないかぎり、本当の成人にならないのではないかと思います。だから今日は、特に成人を迎えた人々のために祈りたいと思います。一人ひとりがまず自分のアイデンティティー、そして人間としてまた神の子としてのアイデンティティーに気づき、それによって自分に与えられている召命と使命も悟ることができるように願いながら、今日のミサを続けましょう。

---

#### 注

(1) ルカ 4・18 参照

(2) ルカ 2・49 参照